

みなさん、「雀の涙」

という言葉を知っていますか。「雀の涙」とは、ほんのわずかであるという意味です。ぼくの財布の中



身は「雀の涙」ほどしかありません。財布の中には「閑古鳥が鳴く」ような状態なのです。「閑古鳥が鳴く」とは、不景気でうすら寂しいときのことを言います。まさにぼくの財布です。

〇家では、お年玉などの特別なものを除いてのお金の配分は、両親と祖父と祖母が決めています。ですが、ほぼ話し合いはなく、祖母の一言でほとんどが決まってしまう。このようなことを「鶴の一声」と言います。ちなみに、このときぼくへの支給はないです。昔は説得しようとしましたが、逆にむなしくなるので、もうやめました。何事もあきらめが肝心です。



このように、物事に降参する、つまり、諦めること

を「手を挙げる」と言います。

こうやって、〇家の中で戦いが起こるのは、お金のことばかりではありません。

例えば、夕飯ですき焼きが出た時のこと。鍋が食卓に置かれた瞬間に、みんな我先にお肉を狙ってわしづかみにします。「わしづかみ」とは、荒々しく物をつかみ取ることです。ぼくも急いでお肉を取らないと、大切なお肉が父や姉の手に渡ってしまうので、頑張って取ります。運が悪いと、お肉がとれても、横から姉に皿から取られてしまうときもあります。このように、大切にしている物を横から不意に奪われることを「鳶に油揚げをさらわれる」と言います。〇家の人は、鳶に油揚げをさらわれたりさらったりしまくっているのです。もう、怒ることもほぼないです。ちなみに、先日は、二枚しかお肉が取れませんでした。「弱肉強食」って、このことですね。でも、ぼくは、手を挙げたりせずに頑張りたいです。ご清聴ありがとうございます。